

発行所 大熊町公民館
電話(大野)65番
編集責任者 吉田農夫雄
印刷所 加納活版所
電話平(4)2409番

おおくま

◎火災の季節です。火の元にじゆうぶん注意しましょう
◎車は日毎にふえてきます。お互交通規約を守って、事故を起さないよう注意しましょう
◎寒くなるにつれて風邪が流行します。健康に注意しましょう。

＝躍動と前進のために＝



夜明け

原発の海原に陽はのぼる。一九六八年、明治百年の年、やがて二十世紀が終り二十一世紀が来る。
大熊町の黎明、日本の躍進、宇宙時代への突入。明けゆく海に、静かに、力強く、陽はのぼる。
どしどしと動かぬ原発のクレーン動の前のひとこまのじま、あかねさす雲。うねる波、夜明けを告げて元日の陽はのぼる。

新春のあいさつ

昭和四十三年の新春にあたり本町教育行政の一端を申し上げる機会を得ました事を光栄に思います。
今年も明治百年の年であり、私達は明治維新が近代日本に及ぼした意義を静かに回顧して今後の希望と躍進への契機にしなければならぬと思えます。

町の建設は地籍調査より

昭和四十二年より七ヶ年計画で大熊町の地籍調査が行われることになりました。この調査は土地の国勢調査ともいふべきもので、国土調査の一として行われる大切な調査です。今まで皆さんの土地の境界が不明確で、地籍調査が開始されたのは、明治の初めに地籍調査が行われたためのもので、当時の測量技術の幼稚さと、長い年月を経たため現況のうつりかわりによって、今は全くあてにならない、大切な土地の境界争いの原因ともなっています。

年頭にあたって

町長 志賀秀正

町民の皆様、希望に満ちた新春を迎えようとおめでとございます。
昨年は長雨災害のために全国的な大豊作とほらほらに暗い想いをいたしました。皆様の真剣なる御努力によりて平年作以上にきつげ越年しました事を心から感謝申し上げます。
何と申ししても本町は全戸数の六〇%を農家で占めており、その豊凶が町全体の活気を左右する現状であり、昭和四十三年こそは最良の気候であるよう祈念いたすものであります。
日本文化の夜明けは明治に始まり、悠々たる地球の回転は本年で明治百年を迎えましたが、その間幾度の建設と破壊が繰り返されて参りました。
戦後の日本が、吾々の、旺盛なる知力と体力によつて苦難の道を通り開き、平和への理想を描いて更に前進しようとする時、そこには破壊のない真の建設のみが時代の大事業を祈念いたし新年の御挨拶といたします。

町民各位には更に健康に留意せられて、伸びゆく大熊町のため一層の御協力を期待いたします。

成人おめでとう

成人おめでとう。みなさん、満二十歳をむかえ成人に達したわけですね。いよいよひとり立ちできることになりました。いままでは暖かい両親の監督、保護のもとに育ってききましたが、これからは「成人」としておとなとして認められ、法律的には社会の独立人として生活しなければならなくなりました。

43年度の家計生活消費経済に目を

次年度の教育目標であり、私達は、児童生徒の交通事故対策と、民族繁栄の基礎になる人づくり教育を目標として進めたいと思えます。
今や終戦以来二十有余年、世は余りにも大平ムードに埋没し真に寒心に耐えられません。世界はあけて教育爆発時代であります。より光栄ある現在をつくり将来をつくるため

計画的消費を

私達は、消費革命の波にあらわれています。店先には、日用品から高額な耐久消費財までずらりと購買欲をそそいでいます。無計画な購入は、生活の豊かさを左右するのです。

商品知識が大切

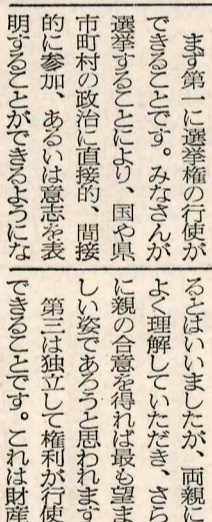
出まわると新製品、宣伝のウズと販売攻勢の中で「豊富」の取りひき等に親権者の同意や代行が必要であったわけですが、これからは成人として自分の意志で権利が行使できるわけですから、心して事にあたらねばならないと思えます。

一人三脚

収入の増加、消費支出の合理化、貯蓄の実践こそ生活向上の三脚です。今年こそ一層消費研究に力を入れましょう。

成人式風景

成人式風景 43・1・15



買ったかとい消費者となるのが大切。
一人三脚
収入の増加、消費支出の合理化、貯蓄の実践こそ生活向上の三脚です。今年こそ一層消費研究に力を入れましょう。

議会広報

昭和四十二年大熊町議会 第四回定例会 開催さる

去る十二月二十一日より三日前、役場会議室に於て昭和四十二年最終の定例会が開催された。

- 審議された提出議案
議案第五十八号 議会の議員その他非常勤の職員公務災害補償に関する条例
議案第五十九号 大熊町営住宅条例の一部を改正する条例
議案第六十号 大熊町営住宅使用料徴収条例の一部を改正する条例
議案第六十一号 大熊町職員定数条例の一部を改正する条例
議案第六十二号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
議案第六十三号 昭和四十二年大熊町一般会計補正予算(第五号)
議案第六十四号 昭和四十二年大熊町一般会計補正予算(第六号)
議案第六十五号 昭和四十二年大熊町一般会計補正予算(第七号)
議案第六十六号 昭和四十二年大熊町一般会計補正予算(第八号)

年頭の辞

町民の皆さん、新年おめでとうございます。希望に満ちた昭和四十三年の新春を迎えるにあたり皆さんの御発展と御多幸を心からお祈り申し上げます。皆様には、大熊町政伸展のため一杯の御協力を賜わりお蔭をもちまして大過なく越すことができました。

以上のような経過に於て上程議案八件、議案三件、改選後初めて定例会でありましたので活発なる質疑討論の末、万場一致原案通り可決された十二月定例会一般会計補正予算による主な質問は次の通りである。
六番議員 吉岡光雄
1 土木行政について
2 手倉ダムについて
3 家畜センター問題に就て
4 教育関係について
5 町補助金交付について
11番議員 渡部悟
1 都市計画について
2 学校教育施設について
3 公害防止設置条例に就て
4 野上国有林林下問題について
5 消防関係について
五番議員 荒岡正一
1 一般町政の今後の方針について
2 失対行政について
3 道路行政について
4 全国各地の東電視察の経費問題について
5 旧国道の舗装について

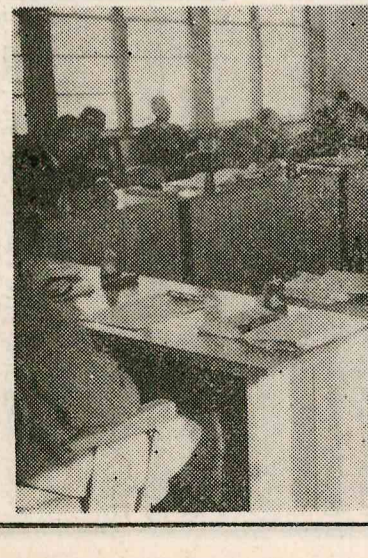
町長答弁

町長の答弁
1 三角屋までの舗装を何年に完成させるかや、もし完成出来なかつた場合いかなる考えがあるかという質問の主旨であります。現在の野上小良浜線の路床が、今年一〇五〇万円の公共土木事業費がつきましたが、昨年は六〇〇万円であり、今後の期待通りにはなかつたために、大熊町の玄関口である旧道の舗装が実現出来なかつたが、来年度は是非完成に努力したい。
2 熊町小中学校東部の排水については野上形地区住民の不安をなくすると共に恒久的な排水路を計画したい。
3 役場から中島時計店までの舗装については、年度道路との関係もあり、四三年三月までに完成させる見通しである。
4 富岡町地区としての都市計画建設省の街路計画が認可になりましたので、先行投資を以

の予定であるか
大野小中学校の電話を宿直室に切換える件につき、早急に善処されたい。
駅前消防団の整備と之が排水路は環境衛生モデル地区でありながら非常不潔である。之が改修対策を早急に実施する考えはないか
熊小中学校の排水路を計画し、早急に実現する考えはないか
旧県道は、養蚕育英資金制度を設けたいが、当町としては、之が制度を設ける考えはないか
公民館又は老人福祉センターの建築計画はないか
熊小中学校の修繕費の計上は、又町長は現状を見たいか
体育館とは雨露をしのぐ場所ではない
大野小中学校体育館(屋内体操場)は何年頃に着手
2 新国道建設原川原熊川
1 大熊町農協振興対策協議会
2 大熊町農協振興対策協議会
3 大熊町農協振興対策協議会
4 大熊町農協振興対策協議会
5 大熊町農協振興対策協議会
6 大熊町農協振興対策協議会
7 大熊町農協振興対策協議会
8 大熊町農協振興対策協議会
9 大熊町農協振興対策協議会
10 大熊町農協振興対策協議会

大熊町 養蚕の現況

Table with columns: 産繭の比較, 養蚕戸数の比較, 養蚕の現況. Includes data for 41st and 42nd years regarding silkworm rearing statistics.



写真は第四回町議会定例会 42年12月21日

世はあげて

勉強時代

流れる水は生きていく

二十世紀から二十一世紀にかけて世はあげて勉強時代。世界的に教育爆発時代という。急進する科学、技術とに...

若妻学級

雪の巻梯で学級大会

毎年各ブロック毎に開かれていた県婦人学級大会は今年四月十二日...



写真 左 高令者の臨冬季栄養を研究する 若妻学級 老人は家の宝、社会の塩 12・21

さん、斎藤キヌ子さんの七名が出席した。大会の研究主題は「婦人学級の学習内容を深め学習効果を高めるにはどうあるべきか」...

氏、泉都委員 運営委員、加藤菊委員、小笠原校長、但野校長、横田校長、熊安子委員、大和田武夫委員、協力委員、愛媛仁委員、泉田すみ子委員、斎藤ツル子委員、★正月の集いから★



写真は若妻学級の着物着付け学習

大熊町青年農業後継者 稲作研修会会員募集. 一、申込場所 大熊町公民館 二、申込期間 二月十日まで 三、住所・氏名・年令明記の事 研修会代表 鎌田寿忠

戊辰戦争 町史資料蒐集委員. 平城 田二万石に移されたあとを、島居左京亮忠政が同じ関ヶ原の役に父の彦右衛門元忠が伏見城を死守した手柄によって...

句壇 猪狩哲郎選. 山田つき先生遺句 病窓に友と語りぬ秋をほる 風呂たいておそき子待つ秋の雨 咲く野菊よもきあきみは枯れにけり

小名浜陣屋 小名浜陣屋は、小名浜の古湊の背後にある御陣屋とよばれている丘の上にあったといわれています。 延享四年(一七四七)に平城七万石・内藤氏が国替えになったとき、幕府は二万三千石を城付き地とし、残り四万七千石を幕府の直轄領としてこの地に陣屋を構え、竹垣治郎右衛門を代官にしました...

